

施工方法（粉末タイプ、ペーストタイプ）

ビニールクロス

※薄手のビニールクロスで、
プラスターボードか合板に貼っているものに限りです。

珪藻土壁材〈エコ・クィーン〉は弾力性がありません。施工前に下地に動きがないか確認の上、施工してください。

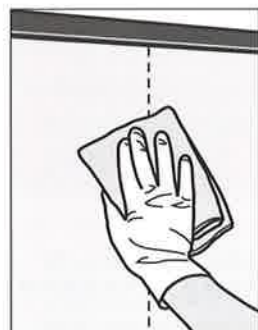
最初に、施工面をチェックしてください。

- 浮き・剥がれ** クロスが部分的に接着していない箇所は、しっかりと貼り直してください。そのまま施工しますと、仕上げ面がコブのように浮き上がることがあります。
- 密着力** 新しいビニールクロスの中には、壁材との密着力が悪いものがあります。目立たないところで〈NGU〉、または、〈ペーストタイプ〉を少し塗り付け、2〜3日後に接着力をチェックしてください。
- カビ** カビが生えている所は、消毒用エタノールで確実に殺菌してください。カビが残っていると、仕上げ面に出てきます。

以下のようなクロスは剥がして施工してください。（施工手順は14〜15ページ）

- 厚手（発泡）のもの（気温の変動に伴う伸縮が大きく、仕上げ面に小ヒビが入る恐れがあります）
- コンクリートに直貼りされているもの（タッカー留めができず、将来、クロスごと剥がれる恐れがあります）
- 汚れの付着がはげしいもの（汚れが要因となって壁が剥離する恐れがあります）
- 天井面の古いクロス（汚れが付着しやすい場所であり、壁剥離やシミの要因となる汚れを除去することが困難です）
- 剥がれかかっている箇所が多い（施工後、コブのように浮き、仕上げ面に影響を与える恐れがあります）
- カビが下地のボードにまでおよんでいる（カビを確実に殺菌できず、仕上げ面に出てくる恐れがあります）
- 下塗材〈NGU〉の消石灰に反応して異臭を放つもの → 外見から判別することができません。チェック方法は21ページ
※ペーストタイプで仕上げ塗りをする場合は剥がす必要はありません（ペーストタイプは消石灰を使用しておりません）。

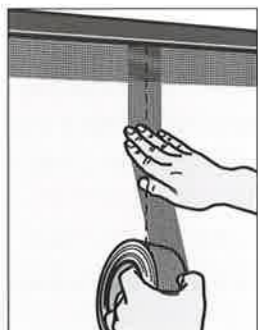
1 施工面の清掃



中性洗剤を水で50〜60倍に薄め、雑巾で汚れや油分を完全に落としてください。タバコのヤニは、水ぶきの方がきれいに落とせます。

汚れが残っていると、壁剥離やシミの原因になります。

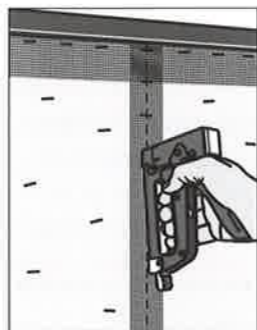
2 ファイバーテープ貼り



クロスの端と継ぎ目にファイバーテープを貼ってください。（図A参照）

ファイバーテープは、よじれたり浮いたりしないようしっかりと密着させてください。

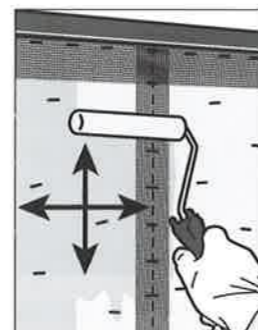
3 タッカー留め



クロスの継ぎ目と端は、10cmの間隔で、その他は10〜15cmほどの間隔でタッカー留めしてください。

施工面から浮いているタッカーの針は、押しこんでください。

4 シーラー塗布（密着力強化）



塗りムラがないようローラーは「タテ・ヨコ」両方向に動かしてください。

水性シーラーを施工面に塗布してください。

塗り残し、塗りムラがないよう、ていねいに塗ってください。

〈粉末タイプ〉はこちら→

乾燥

5 下塗り

下塗材〈NGU〉を塗ってください。（標準施工厚：1mm）
下塗りで平らな面を作っておくことが、仕上材をきれいに塗るためのポイントです。

下塗材〈NGU〉の消石灰に反応して異臭を放つクロスがありますので、ご注意ください。
チェック方法は21ページ

ペーストタイプはこちら↓

〈ペーストタイプ〉は接着力が強いので、ビニールクロス下地の場合、「下塗り」を省くことができます。

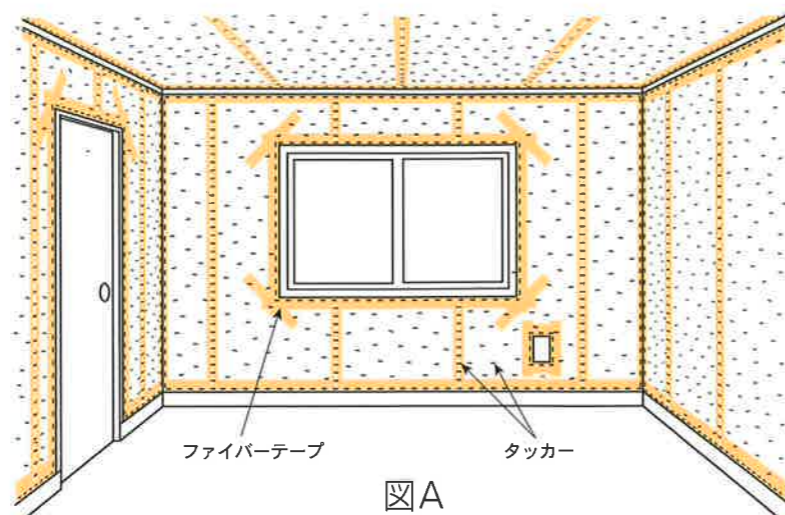
乾燥

6 仕上げ塗り

仕上材を塗ってください。（標準施工厚：2mm）
仕上げ塗りの要領は22ページ

5 仕上げ塗り

仕上材を塗ってください。（標準施工厚：1.5mm）
仕上げ塗りの要領は22ページ



ファイバーテープ タッカー

図A